

県オリジナル品種育成の要望

大分県では多くの焼酎醸造メーカーが立地し、宇佐市では地元メーカーとの契約のもと、醸造適性が高い「ニシノホシ」の作付が進んでいました。

しかし、「ニシノホシ」はオオムギ縞萎縮病Ⅲ型に弱く、県内でもⅢ型への感染が危惧されることから、Ⅲ型に強く醸造適性の高い新品種が強く求められてきました。また、本県は全国一の麦焼酎の生産県であるため、本県独自の育成品種を使った麦焼酎のブランド確立が大分県酒造協同組合から強く求められていました。

ブランド商品化に係る問題点

- ①「ニシノホシ」が国の育成品種である。
- ② 県外での「ニシノホシ」の作付面積が増えている。
- ③「ニシノホシ」を材料にしても県オリジナルブランド商品は作れない。

大分県酒造協同組合との共同研究に着手

平成17年度から、大分県酒造協同組合からの要望を受け水田農業グループの研究課題として「大分ブランド確立のための焼酎用大麦品種の育成」が開始され、本格的に新品種の育成が始まりました。

また、平成19年には大分県産焼酎用大麦品種開発研究会を設置し、大分県酒造協同組合、大分県産業科学技術センターと共同で品種育成、品質評価を行い大分ブランド商品の開発に取り組んで来ました。